

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2774002352		
法人名	特定非営利活動法人 いきいきライフ協会		
事業所名	グループホームいきいき東豊中 1階		
所在地	大阪府豊中市熊野町3丁目3番47号		
自己評価作成日	平成23年3月24日	評価結果市町村受理日	平成23年5月27日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>・利用者一人ひとりの思いを把握し、その人にとって一番良い暮らし(集団の中での個別ケア)が、提供できるように支援している。</p> <p>・当ホームは地域行事が盛んであり、特に近隣神社のどんど祭りや、みこし祭りは利用者の心を元気にし又いつでも、手を合わせる癒しの場所として、毎日散歩に出かけている。</p> <p>・職員は、孫のような若い職員から、娘や息子、又兄弟のような幅広い年齢層であり、その時々の利用者の状態に合わせて臨機応変に関わりをもち、穏やかな生活が送れるように支援している。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-">http://www.osaka-fine-kohyo-</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成23年4月25日

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>高齢者が豊かで安心できる生活環境を提供するとした法人の設立目的の下、事業所はゆったりとした時間が穏やかに流れている。運営者が事業所の2Fに管理者の要求に応じて即刻作った”蕎麦屋”に似た素敵なスペースは、利用者・家族にとってなごみの場所となっている。事業所は書類管理がきちっとされ、特に接遇、食事、入浴、排泄等9項目の職員のチェックリスト表は日々ケアサービスに関する原点となっている。事業所の前にある神社は日常の散歩コースとなっていると共に色々な年間行事への参加は地域住民とのふれあい場所となっている。介護に関して熱い思いを持っている管理者は職員と一緒に利用者ごとの思いを大切にしたい心のこもった支援を実践している。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある地域住民とのふれあいは、利用者の心を元気にしている。又理念を掲げたものだけにならないよう適所に掲示し、実践につなげている	事業所独自の理念を所々に掲示し、職員は共有している。職員は毎日チェックリスト表で自己評価をし、地域とふれあいながら理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者を始め近隣在住の職員が多く、その為地域の行事へは、親しみを持って楽しく参加できている。又毎年行われる体験学習として、中学生の受け入れがあり、子供達とのふれあもできている	自治会に加入し、地域の祭り等に積極的に参加している。地域の方に認知症セミナーの開催や近隣の中学生の体験実習等を受け入れている。前の神社は地域住民とのふれあい場所である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や、サロン、デーサービス等へ、出かけ、地域の人々と交流を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議にて、報告や、情報交換は、豊富にあるが、実際にサービス向上の為の結果につながることは、まだ少ないと思われる	市高齢介護課、地域包括センター、自治会会長、民生委員、家族等が参加され報告だけでなくテーマに関する双方向の議論が行われている。この1年は2回の開催となっている。	中味のある会議が開催されている。ただ常に変化していく運営に関してやケアサービスの向上に役立つ会議の開催頻度をたかめる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議にて、市役所役員、地域支援センター、地域関係者へ、事業所の実態を報告し意見、アドバイスを受けている。又電話での、相談は随時行っている	徘徊する方々に対する携帯メールを利用した市との協働関係を行ったりして、気軽に市と相談出来るようになっている。市に目標達成計画を報告する時に積極的に相談や助言を得るように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リビング扉は開錠し、玄関までは自由に行きできるが、玄関扉は、安全性の確保が難しく、現在職員の見守りのもと、短時間の開錠となっている	基本方針として身体拘束を行わないという事を掲げ、研修会を開催している。玄関は安全の為施錠しているが職員の配置により、開錠している時間もある。利用者の外出シグナルに職員は出来るだけ対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、告知義務にて防止に努めている。又言葉の虐待を見逃さないように、研修等で、認識を高めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度等のセミナーへ参加し理解を高め又後見人の面会時には、質問等を行い、個々の必要性について学び、支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて十分な説明を行っている。不安や疑問についても、理解されるまで、説明を行い、納得頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、必ず近況報告を行い意見等が、無いかを確認している。又「言いにくい事」については、意見箱を設置し、対応できる様になっている	意見箱を設置している。家族の訪問時には出来るだけ意見を聞くようにしている。家族は事業所に意見を言い難いことを理解している。	家族に対し些細な事でも気軽に意見を言ってもらうように地道に務め、受けた意見は苦情処理簿に記録し、内容・経過・結果を記入するようにして事業所の財産とする事を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して、職員の意見等があれば、随時、代表者・管理者・リーダーと話し合いを行い、改善又は、反映させている	職員は運営に関する事等提案出来る機会がある。管理者は運営者と意思疎通がよく即刻対応する体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の雇用形態就学条件を考慮し、且つ本人の能力、努力を評価した賃金体制としている。又厚生労働省実施の、処遇改善事業の導入により職員の処遇改善を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせた、研修の参加を促し、その研修の報告は、会議等で全員に行いケアの統一を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス部会の、グループワークに参加し交流を図り、その後も相互訪問等で、互いのサービス向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に受容態勢で聞き取りを行い、利用者の気持ちにたつて全て受け止め、安心した信頼関係がつかれるよう支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や悩みを抱えている家族等に対し、その人の立場に立って考え又本音部分を、見逃す事の無いよう慎重に傾聴しながら、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の悩みや不安はそれぞれ違い、互いの思いを傾聴し、今何が必要なのを見極め、多様な方向からの支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の性格や個性を十分に理解し「出きる事、出来ない事」を見極め、職員と共にやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者をケアする為には、家族のケアも大切であり家族の気持ちをしっかり受け入れることで、共に利用者を支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人との関係が切れない為に年賀状や、電話のやり取りを行い、関係が切れないよう支援に努めている	友人が訪問される時は事業所は利用者との面談が出来るだけお互いに良い状況になるように支援している。利用者の馴染みの場所にも家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や個性を大切に、タイミングを図りながら、利用者同士が自然な関わりを持てるよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、利用者の面会に出かけたり、家族から相談等があれば、一緒に考え解決出来るよう支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や会話の中から、利用者一人ひとりの思いを把握し、穏やかに暮らせるよう支援に努めている	本人本位に利用者の暮らし方の希望を把握し、職員は共有して意向に添った支援を行うように努めている。家族とはくり返し過去の生活状況を聞き、利用者の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症の為に本当の心が見えにくい時は、家族等より情報を徴収し、利用者にとって一番良い暮らしを、提供する為の支援に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の「解る力」・「できる力」について、個別に記録をおこない、把握しながら向上に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度の会議で問題点等を話し合い、利用者の本音の部分や家族からの情報にて、利用者にとって、一番良い暮らしができる為の計画書を作成している	毎月新鮮な眼でモニタリングを行い、6ヶ月に1回計画の変更を行っている。健康状態の変化には即対応すると共に、家族や医師と相談しながらチームで介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々様子が解るように、個別で細かく記録し、気づきについては、申し送りノートと、口答にて職員全員が情報を共有し、実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況により、職員が通院の付き添いに同行している 家族以外の、面会の際には、職員が必ず同席し混乱しないよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力ボランティアの来訪(ギター演奏、かみしばい、手品、舞踊等)や地域行事が盛んであり、利用者が、それぞれ興味のある行事に参加できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の付き添いが無理な場合や又病状の説明が難しいときは職員が付き添い、スムーズな受診が行われるよう支援している	入居以前のかかりつけ医への受診は家族の協力で支援している。協力医療機関の医師および歯科医は月2回の往診がある。服薬にも認知症専門医と相談したり、チェックリストで服薬についての状況変化を評価している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診クリニック・往診歯科等の、定期的な受診を受けている為、随時相談等ができ、安心した看護を受けることができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医への緊急入院では、お互いのサマリー等の情報交換が早期にできている。又近隣に受け入れの病院も多い為、安心して治療を受ける事ができている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事業所でできることについて説明をおこなっている。又状態の変化が観られた場合は、主治医に相談し利用者、家族と話し合い、本人にとって一番良い暮らしが、提供できるよう支援している	医療連携等事業所として現状、重度化や終末期の対応は出来ないことを早い段階から家族に説明している。事業所として家族の意向を真摯に聞き、出来る範囲の支援をするように努めている。事業所は重度化に対する勉強会を検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で、毎年心肺蘇生法や、応急手当の研修等を施行し、職員は定期的に参加し認識を高めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	認知症のホームでは、災害時に利用者は、パニックになり、どのような行動をとるのか想定出来ない為、利用者の状態に合わせて臨機応変に対応できるよう訓練を施行している	消防署の指導を得て昼夜を想定した事業所独自の消防・避難マニュアルを作成している。定期的にそれに基づいた避難・消防訓練を実施している。食料や飲料水を備蓄している。近隣の住民にも自治会を通じ非常災害時の協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録は全て個別におこない、保管場所には鍵をかけている。プライバシーについて、排他誘導時等の声かけでは、利用者の心を傷つける事のないよう注意しながら対応している	接遇に関して毎日、全職員がチェックリスト表で自己評価をしている。特に言葉掛けには利用者のプライバシーを損ねないように職員間で注意しあうように努めている。個人情報の管理はきちんと管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分な意思疎通が出来ない利用者へは、ボデータッチや、手を握りながら声掛けを行い表情を見極め自己決定できるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの、その日の体調や、訴えを見極めて利用者のペースで過ごしている。職員の決まりごとがあっても利用者優先の為その都度変更し支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容サービスにより、その時の利用者の希望で、カット・カラーを行っている。又希望によりお化粧品、写真撮影を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者や家族の情報を得て、できるだけ意向にそって献立を立てている。調理の手伝いや、後かたづけ等も、職員の見守りのもと行っている	利用者ごとの好みや希望を取り入れた献立を自前で作成している。利用者は調理・盛り付け・片付け等出来る範囲で職員と一緒にしている。楽しい外食も定期的に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じて、刻み食やミキサー食を提供している。又その日の体調により、調理法を変えている。水分は、脱水にならないように個別にチェックし対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、職員と共に口腔ケアを行い、できない所だけ介助している。又ミキサー食の利用者へは、汚れや臭いが残らないように、口腔ウェットにてケアをおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンが違う為、個々にタイミングをみて誘導している。声かけ時も利用者の心を傷つけないよう配慮し支援している	出来るだけ自立で排泄が出来るように排泄チェック表を基にパターンを把握し、言葉に配慮しながら誘導している。オムツを極力使わない支援を職員間で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて、個々のパターンを把握し、便秘になる前に飲食物や、運動等で予防している。又徘徊や、不穏状態も、便秘が原因になる事を認識し早めの対応を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調や気分を受け入れ、順番を、決めずに対応している。又歩行や立位が不安定な時は転倒の危険性が高い為、シャワーチェアで入浴を施行している	2日に1回は入浴するように支援している。嫌がる利用者には強制的な誘導はせず、入浴時間等1人ひとりの希望に添った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の申し送りと、その日の申し送りや体調にて休息を促している。又無理に就寝を勧めるのではなく、落ち着かれるまで職員は寄り添い、安心して入眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	殆どの利用者は服薬の認識が無く、その為職員が、目的や用法等を理解し服薬時は、一人ひとりが飲み込むまで見守り確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や利用者の会話にて、情報を頂き個別に対応している。嗜好品については、外食等で自ら選んでいただく機会をつくり、楽しみごとを増やす為の支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、可能な限り外出できるように努めている。遠足等へは家族の参加を促し、協力を得て出かけている	日常的に事業所前の神社が散歩コースとなっている。また事業所の周囲も1周でき利用者はプランターに植えた彩豊かな花や野菜を見て外気を楽しんでいる。花見、紅葉狩り、遠足、外食等特別な外出も頻繁に行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に、お金の所持はしていないが、買い物へ出かけた際は、見守りの元、支払いをお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員が取り次ぎ、居室にてゆっくり家族等と、話せる時間をつくっている。お正月には、年賀状にての、やり取りができています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレから、浴室へつながる扉があり、汚染時には素早く対応できている リビング横には、ベランダがあり、利用者と共に洗濯物の干し入れをおこなっている	ゆったりした共用空間となっており、所々に利用者と一緒につくった季節感のある折紙や絵・写真が飾られている。居間のソファは立ち上がりに配慮した高さに工夫している。管理者の提案で作った和風のスペースは家族との憩いの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適所に設置しているソファは、気の合う同士や、一人でのんびりと過ごせる場所になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、危険なものが無い限り、持込の制限は無く、利用者が、馴染みの物がある居室で、穏やかに過ごせるように工夫している	使い慣れた家具や置物を置き、自宅の部屋と変わらない雰囲気作りを支援している。思い出のある写真や馴染みの小物を飾り、居心地よく過ごせるような居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングから、洗濯干し場が、見える為利用者の意思で、取り入れ等をおこなっている		